

第3章 多摩ボランティアセンターの活動の概要

「学生ならではの活動展開と信頼の構築、そしてその継承と発展をめざして ー多摩ボランティアセンター2017年度活動の総括ー」

多摩ボランティアセンター長 宮城 孝

2017年度は、昨年度からの「学生スタッフによる自律的な企画運営の推奨」、「地域との絆の強化」を柱として取り組んだ活動の継承と発展をめざして活動に取り組みました。

一つ目の「学生スタッフによる自律的な企画運営の推奨」は、多摩ボランティアセンターの伝統的な方針として、ボランティアの基本的なあり方に基づき、学生の自由な発想と活動を尊重し、育んでいくというスタンスです。ボランティアセンターとしては、実現可能性や安全性などに気を配って助言し、責任を持って社会的に意義のある活動が展開できるように支えています。

その点で2017年度は、昨年度様々なフィールドで学生スタッフが、自ら考え企画し実施した活動で得た成果を踏まえ、その継承と発展をめざして活動を展開していきました。

被災地支援においては、東日本大震災の被災地支援では、「チーム気仙沼でつながり騎士(ナイト)」が、9月8日から10日に、昨年同様宮城県気仙沼市大谷海岸花火大会運営のボランティアと被災地スタディツアーに15名が参加しました。花火大会では、現地リーダーのお宅の竹で慰霊のための竹灯籠を作成し、花火大会会場に設置し好評を得ました。また、舞台の設営、片付け等を手伝い、ステージにも参加させていただきました。このイベントは、法政大学多摩ボランティアセンターの協力なしには実現が難しいほど信頼を得ていると言えます。また、気仙沼市役所職員や陸前高田の被災者のリーダーからお話をうかがうなど、被災地の置かれた現状や課題について学習しました。

熊本地震の被災地支援では、学生スタッフ有志による「チームたまもん」が、昨年に引き続き、現地のニーズが何なのかを探りながら活動を展開しました。4月14日には、エッグドーム入口の階段に、復興祈願の竹灯籠を設置しました。熊本県益城町の木山仮設団地を中心に、8月22日から25日に第1次隊、9月30日から10月1日に第2次隊、2018年2月18日から20日に第3次隊が、益城町木山の仮設住宅団地の集会所にて、熊本YMCAのコーディネートのもと、子ども・高齢者との交流活動を行うことができました。特に、厳しい環境の中、遊びや学習の環境が制限されているお子さんとの遊びなどを通じた交流活動は、非常に意義があると思います。

また、学生スタッフが企画した現地のお茶屋の富澤さんと相原のカトウファームさんがコラボして制作した抹茶プリン「益城町を応援しなく茶プリン」は、町田市の市民協働フェスティバル「まちカフェ」などでも好評で、新聞にも掲載されました。阪神・淡路大震災から継承されている「はるかひまわり」の種を、多摩キャンパスの校門近くの池のほとりで

育て、無事に満開の花が咲き、その種を木山仮設の自治会長さんにお届けしました。この活動も新聞に掲載されました。

第3次隊では、現地で熱心な活動をしている熊本学園大学の学生と熊本学園大学においてワークショップを行い、大いに刺激を受けました。また、本学の学生の活動をきっかけに、熊本保健科学大学の学生が共同して活動に取り組みこととなり、現地の活動に寄与することができました。

このような東日本大震災、熊本地震の被災地支援の活動は、刻々と変化する現地の状況とニーズに配慮しながら、被災地に何が求められているのかを学生自身が考え、被災地に寄り添った活動を展開していきます。

第二の多摩ボランティアセンターの特徴である「地域との絆の強化」においても、学生が主体となって、住民団体と交流しながら企画し活動展開をしています。

昨年度、相原町のにぎわい創生を目的に開催された町田市とさがまちコンソーシアム主催の「相原エリア魅力づくりコンテスト」に、スタッフ有志が「チームあいはら魅ラククル」として応募し、優秀賞「相原にぎわい創生賞プロジェクト賞」を受賞しました。そして、今年度、スタッフ有志が「相原思いの竹カフェ」を企画し、6月10日、12月8日、3月10日の3回にわたって、エッグドームの森カフェにて、相原地域の住民との交流会を実施しました。また、11月3日には、女子美術大学と共同して、相原中央公園であいはらワクワク竹学校にも参加しました。この活動も新聞に掲載されました。

これらの企画を通して、多摩キャンパスの地元である相原地域の住民と学生の相互の交流が一段と進んだことは、非常に意義深いと思います。多摩ボランティアセンターの特徴である地域密着型の活動は、この他にも地域や社会福祉施設のイベントなどへの参加・協力などがありますが、今後ともさらに地域と連携し、様々な方達と交流することによって、学生が地域社会を理解すること、また豊かな社会体験の形成につながることを期待しています。

在任中の2年間、学生が主体的に企画し実施した取り組みが何回も新聞等に取り上げられ、法政大学多摩キャンパスのパフォーマンスを大いに高めてくれましたことを、率直に喜びますとともに、この場を借りて学生の皆さんに感謝したいと思います。

このように、被災地支援や地域との交流活動などにおいて、大きな成果をあげた2017年度の活動でしたが、来年度は、これまでの様に学生の活動を支えてくれた職員の皆さんの異動があります。また、東日本大震災の被災地支援では、大和証券福祉財団、熊本益城町の活動には、日本財団ガクボによる助成があつてこそ実現しています。今後、多摩地域交流センターとの関係性の整理、被災地支援活動等の財源確保などの課題が残されています。

個人的には、学生とともに参加した気仙沼や益城町の活動は、貴重な思い出となるとともに大いに刺激となりました。2年間の学生スタッフをはじめ職員の皆様のご理解・協力に心から感謝申し上げますとともに、今後とも学生スタッフの主体的な活動の成果が継承され、学生ならではの存在感が発揮され、社会的に意義のある活動が、活発に展開されることを期待しています。

① 2016 年度益城町支援活動写真パネル・折り紙展

日時：2017 年 4 月 10 日（月）～ 4 月 14 日（金）

場所：多摩キャンパス EGG DOME

概要：

1. 内容

「チームたまモン」による熊本県上益城郡益城町での活動風景のパネル展。4 月 14 日（金）には Slow World Café にて益城町産のお茶を提供し、EGGDOME 階段下では復興を願う竹灯籠を点灯した。4 月 13 日（木）発行のタウンニュースで取り上げられた他、当日の活動風景は東京新聞による取材を受け、4 月 15 日（土）付の多摩版に掲載された。

2. 参加者数

5 名

3. 背景・目的

- ・多摩ボランティアセンター学生スタッフの被災地支援活動を知ってもらう。
- ・震災から一年経過した被災地の現状を伝える。

4. 参加者の感想

「熊本地震から一年経ち、熊本地震の風化防止と多摩キャンパス生の防災意識の向上を目的として熊本地震の影響や私たちの活動を載せたパネル展と竹灯籠を灯しました。これからも定期的に被災地の復興状況や防災への取り組みを伝えていきたいです。」（現代福祉学部 2 年 恩田祐希）



活動パネル展示



復興を願い、竹灯籠を並べました

② 八王子市・町田市連携イベント 第4回チャレンジ防災

日時：2017年4月22日（土） 10：00～15：00

場所：都立小山内裏公園

概要：

1. 内容

地元企業、学校、地域住民の方々、自治体、警察、消防などが連携・協働した防災イベントに参加。学生スタッフ3名が気仙沼、益城町での活動風景パネルを展示し、被災地の実情や今後の課題について紹介した。また、来場者に被災地関連クイズを出題し、多くの方々に参加いただいた。

2. 参加者数

3名

3. 背景・目的

- ・多摩ボランティアセンター学生スタッフの被災地支援活動を知ってもらう。
- ・行政や地元企業、警察、消防と協働でイベントを実施する。

4. 参加者の感想

「小さなお子さんから高齢の方まで、幅広い方に、クイズやパネルを通じて現地の状況を発信できたかと思います。また、ディスカッションでは産官学で意見を交わし合うことができ、互いの強みや知識を共有でき、ここには、震災が起きたときに一番重要なコミュニケーションの場がありました。そのようなイベントへの参加は貴重な経験となりました。」（社会学部2年 松田成美）



気仙沼・益城町での活動風景パネルの展示



来場者にクイズを出題しました

③ NPO 法人自立ステーションつばさ 食事交流ボランティア

日時：2017年4月29日（土・祝） 10：30～16：00

場所：NPO 法人自立ステーションつばさ

概要：

1. 内容

多摩ボランティアセンターの新入生歓迎企画。学生スタッフの主導により、多摩市で障がい者自立支援を行う NPO 法人自立ステーションつばさにて、利用者の方との食事交流会を行った。

2. 参加者数

5名

3. 背景・目的

- ・新入生や新学生スタッフにボランティア活動を体験してもらう。
- ・障がい者支援に対する理解、関心を深める。

4. 参加者の感想

「今回、多摩市で障害者の方の自立支援を行う NPO 法人自立ステーションつばささんにて、食事交流ボランティアを体験させていただきました。「ボランティアは何をするのだろう?」「障害者の方のお話を聞きたいけど機会が…」そんな声を聴いて障碍を持つ方と楽しみながらボランティアができればいいと考え、企画させていただきました。当日は学生男女5人で現地に向かいました。オリエンテーションのあと、さっそくつばさの方々と様々な話を交え、楽しみながらたこ焼きやお好み焼きを作りました。どんな料理でも段取りや準備が大切で、利用者さん目線を持つ等、たくさんのことが学べた1日となりました。今後、たくさんの方と連携・交流し、多くのことが学べるボランティアを企画できればと考えております。」（現代福祉学部2年 恩田祐希）



利用者の方と一緒に準備をします



焼きそばとたこ焼きを作りました

④ ゆくのき学園見学会

日時：2017年5月19日（金） 15:10～16:40

場所：町田市立ゆくのき学園

概要：

1. 内容

学生スタッフが主導し、新入生・新学生スタッフと町田市立ゆくのき学園の見学会を開催した。ゆくのき学園のボランティアコーディネーターより、日頃本学学生がどのような活動を行っているのか説明を受け、校内を見学。その後屋内と屋外に分かれ、子どもたちとふれあった。

2. 参加者数

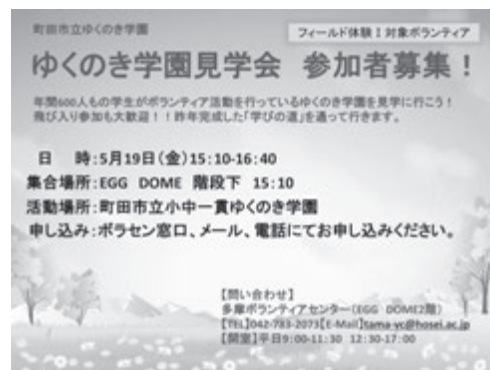
6名

3. 背景・目的

- ・協定校であるゆくのき学園での活動を知る。
- ・新入生、新学生スタッフに地域のことを知ってもらう。

4. 参加者の感想

「学びの道ツアーということで、1年生に昨年の活動を知ってもらいつつボランティアも体験してもらえる機会を作ることができ、良かったです。自分自身も楽しく活動できました。」（現代福祉学部2年 鈴木琴音）



ゆくのき学園の子どもたちとふれあう



法政大学と地域のつながりについて知りました

⑤ 八木重吉記念館清掃ボランティア

日時：2017年5月23日（火）12：50～13：20/ 6月22日（木）11：20～12：00/ 10月18日（水）12：50～13：20
12月11日（月）12：50～13：20

場所：八木重吉記念館

概要：

1. 内容

相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。参加学生はゴミ拾い、除草作業を行い、終了後は八木重吉さんご一家の墓前にて合掌した。

2. 参加者数

日程	参加者数	日程	参加者数
5月23日（火）	6名	10月18日（水）	5名
6月22日（木）	4名	12月11日（月）	4名

3. 背景・目的

- ・大学周辺にゆかりのある文化人の足跡を訪ね、継続的なボランティア活動につなげる。
- ・相原地域の文化的、歴史的に重要な史跡の環境整備。

4. 参加者の感想

「自然の中で集中して清掃に取り組むことで穏やかな気持ちになりました。記念館にも今度足を運びたいと思います。」
(現代福祉学部1年 松下芽萌里)



参加学生による清掃活動 (5/23)



墓前に花を供えました (6/22)



多くの学生が参加しました (10/18)



地域の文化に触れる機会となりました (12/11)

⑥ 相原 11 地区協議会等連携 地域交流会「相原思いの竹カフェ/夏」

日時：2017 年 6 月 10 日（土）13：30～15：30

場所：EGG DOME2 階 Slow World Café

概要：

1. 内容

日頃お世話になっている相原地域の方々をお招きし、「相原」の魅力について語り合い、学生から竹キャラクター&グッズ、ご当地CM等を提案。また、有志学生スタッフによる八木重吉の詩の朗読や、ピアノ演奏を披露した。

2. 参加者数

8 名※前日準備含む

3. 背景・目的

- ・地域の方々との交流を深める。
- ・相原地域の魅力を改めて発見し、それをどのように発信し、他団体と連携していくかについて考える。

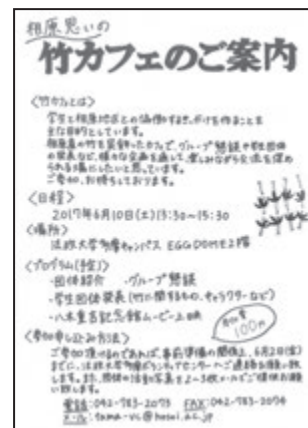
4. 参加者の感想

「地域の方と何かのテーマを決めて話し合うという機会はなかなかないので、多くの意見を直接聞くことができ、意味のある場になったと感じました。いただいた意見を元にして、実行に向けてこれからも頑張っていきたいと思います。」（現代福祉学部 2 年 鈴木琴音）

「竹カフェを通じて相原のまだ知らなかった様々な魅力を発見することができました。今後も地域の方々と一緒に相原と学生を繋げていく活動に携わり、相原地区を盛り上げていきたいです。」（現代福祉学部 2 年 恩田祐希）

「竹カフェおつかれさまでした！わからないことだらけでしたが、先輩との交流が深められて楽しかったです。先輩はもちろん同級生のかっこいい姿を見ることができ、良い刺激をもらいました。自分なりの反省点も見つかりました。事前に相原について調べておくべきだったということが今回私にとって最大の反省点でした。

私は橋本さんのような特技はありませんが、自分がやれることを最大限にやってボラセンに貢献していきたいと強く感じました。また全体として事前準備では装飾のみでなく、リハーサルをもう少し丁寧にやれたら更に良かったのではないかと思います。自分が反省点だなと思ったことを今後の活動に活かしていきたいです。」（現代福祉学部 1 年 富所美羽）





前日準備



八木重吉さんの詩を朗読しました



竹をモチーフにしたキャラクターを提案



学生含め 33 名が参加
相原の魅力について考える良い機会となりました

⑦ ヴィラ町田傾聴ボランティア & Voice of Winds 演奏会

日時：2017年6月24日（土） 14:00～16:00

場所：介護老人福祉施設 ヴィラ町田

概要：

1. 内容

介護老人福祉施設「ヴィラ町田」で吹奏楽サークル「Voice of Winds」のメンバー20名による演奏会と、学生ボランティア3名による傾聴ボランティアを行った。

2. 参加者数

23名

3. 背景・目的

- ・介護老人福祉施設でのボランティアを体験し、関心を深めてもらう。
- ・自身の特技をいかしたボランティア活動を行う。

4. 参加者の感想

「快晴の新緑の中演奏会が開けました。ヴィラ町田様のご利用者様からアンコールや楽しかったという感想が聞けてとても嬉しかったです」（現代福祉学部2年 恩田祐希）



Voice of Winds による演奏



利用者の方々から好評でした

⑧ 第44回めじろ台祭り神輿巡業

日時：2017年7月16日（日） 12:30～17:30

場所：八王子市めじろ台

概要：

1. 内容

八王子市めじろ台1丁目～4丁目が主催する、第44回めじろ台祭りに参加。参加学生には半纏やパッチ、足袋が用意され、地域や地元企業の方々と共に神輿を担いで巡業した。

2. 参加者数

4名

3. 背景・目的

- ・地域に密着したボランティア活動を行う。
- ・多摩キャンパスの学生が多く利用するめじろ台地域の人々と交流を深める。

4. 参加者の感想

「多摩キャンパスの学生が毎日利用しているめじろ台ですが、地域の方々と接する機会はなかなかないので、とても楽しく貴重な時間を過ごすことができました。半纏も神輿も初体験な私たちを温かく迎えてくださり、ありがとうございました！」（現代福祉学部1年 橋本空）



地元の方々と楽しんで活動できました

⑨ めじろ台ふれあいサロン傾聴活動

日時：2017年8月2日（水） 14：00～15：00

場所：めじろ台ふれあいサロン

概要：

1. 内容

京王線めじろ台駅近くの「めじろ台ふれあいサロン」傾聴活動に本学学生が参加。参加者の方との交流を図った。

2. 参加者数

2名

3. 背景・目的

- ・地域に密着したボランティア活動を行う。
- ・地元の人々の話を聞き、大学と地域間の相互理解を深める。

4. 参加者の感想

「普段はめったに聞くことのできないお話を聞いたり、お手玉を一緒にやったりして、親交を深めることができ、とても楽しかったです。ありがとうございました。」（現代福祉学部1年 坂本早希）

「私は初めて傾聴ボランティアに参加しました。そこでは80から90歳の方がたくさんいらっしゃり、皆さん生き生きとしていて、昔の話をたくさん話してくださいました。短い時間でしたが、貴重な体験でした。」（現代福祉学部1年 浅野目つばさ）



参加者の方との交流



貴重な経験となりました

⑩ 八王子まつり山車曳きボランティア

日時：2017年8月5日（土）～8月6日（日） 12:30～15:30

場所：八王子駅甲州街道周辺

概要：

1. 内容

大学コンソーシアム八王子の学生ボランティア企画で、高齢化が進み、曳き子が不足している八王子まつりの山車曳き体験ボランティアに参加。参加した八幡上町町会の曳役衆の進行にしたがって、山車の引き綱を曳いて歩いた。

2. 参加者数

日程	参加者数
8月5日（土）	4名
8月6日（日）	2名

3. 背景・目的

- ・江戸時代に始まった祭りの理解、地域の伝統文化に触れる。
- ・市民、行政、他大学との交流をはかる。

4. 参加者の感想

「今回、八王子市政100周年という節目の年に、初めて山車引きを体験することができました。昼間の暑い中で山車を引くのは大変でしたが、夜のライトアップされた山車はとても綺麗で思い出に残るものでした。」（現代福祉学部1年 石川智優理）



関東屈指の山車が街中を練り歩きました



天津からの中国人留学生とも交流

⑪ ヴィラ町田夏祭りボランティア

日時：2017年8月20日（日） 11:00～15:00

場所：介護老人福祉施設ヴィラ町田

概要：

1. 内容

介護老人福祉施設にて開催される夏祭りの運営を支援した。会場の設営や出店の運営補助を行い、利用者や地域の方と交流した。

2. 参加者数

4名

3. 背景・目的

- ・異世代との交流を通じたボランティアの実践。
- ・ボランティア先として日頃お世話になっているヴィラ町田の活動を支援する。

4. 参加者の感想

「お祭りの屋台のお手伝いをさせていただきました。ヴィラ町田の利用者さんだけでなく、そのご家族も楽しんでくださいました。子どもたちも大勢いてにぎやかなお祭りとなりました。」（現代福祉学部1年 橋本空）



⑫ 熊本支援ボランティア第1次隊/第2次隊/第3次隊

日時：2017年8月22日（火）～8月25日（金） / 9月30日（土）～10月1日（日）

2018年2月18日（日）～2月20日（火）

場所：熊本県上益城郡益城町

概要：

1. 内容

熊本県上益城郡益城町にて、学生スタッフ「チームたまモン」が支援活動を行った。第1次隊（8月22日-25日）は、製茶工場や木山中学校を見学。震災レクチャーを受けた。その後、木山仮設団地にて、熊本YMCAさんにご指導いただき、子ども支援を行った。第2次隊（9月30日-10月1日）は子ども向けの料理教室を開催し、地元の方々とともに、郷土料理であるのっぺ汁を作った。第3次隊（2018年2月18日-20日）では、熊本保健科学大学・熊本学園大学の学生とともに子ども向けの工作教室・学習支援、震災レクチャーの受講などを行った。

2. 参加者数

日程	参加者数
8月22日（火）～8月25日（金）	6名
9月30日（土）～10月1日（日）	6名
2月18日（日）～2月20日（火）	4名

3. 背景・目的

- ・熊本地震被災地の支援。
- ・地域で活動をしているNPO法人と連携したボランティアの実践。

4. 参加者の感想

「継続的に支援を行うなかで、住民の方々や子供達との距離が自分の中でより近づいた気がする。住民の方に震災当時の話から、現在の日常的な話を伺った。自分たちの身にいつ何が起こるかわからないという怖さを感じた。それと同時に、自然災害に備え熊本地震をはじめ、過去の災害時の様子について学び、それをどう活かすか自身で考えねばならないと改めて思った」（社会学部2年 中島美希）



熊本 YMCA さんによる震災レクチャー（一次隊）



子どもたちとカレーを作りました（一次隊）



子どもたちとお菓子作り企画を開催（二次隊）



郷土料理のつぺ汁をいただきました（二次隊）



熊本保健科学大学の皆さんと
子供向けの工作教室を開催（三次隊）



熊本学園大学で震災レクチャーを受けました（三次隊）

⑬ 宮城県被災地ボランティア～気仙沼でつながり NIGHT～

日時：2017年9月8日（金）～9月10日（日）

場所：宮城県気仙沼市

概要：

1. 内容

気仙沼市内で開かれる大谷海岸花火まつり支援をメインに、被災地域の見学やレクチャー、慰霊、仮設住宅の訪問等を通じて、被災地復興の実情と気仙沼市の文化について学習した。

2. 参加者数

日程	参加者数
9月8日（金）～9月10日（日）	15名

3. 背景・目的

- 被災地のニーズに基づいた活動を計画、実施。
- 被災地への継続的な支援。

4. 参加者の感想

「6年経ったけど、まだまだ復興したとはいいきれない状況が気仙沼にはあったと感じた。命を守ることが優先されるのは、当然だと思うがそれとともに以前はあった風景も失われていくのだと思った。自分が想像していた以上に津波の影響は大きく、これからも何か力になれることがあればいいと思う。私たちは、これから何をすべきなのか、支援にも段階があり、今はどの段階なのか、きちんと考えた取りくみが必要なのではないかと今回思った。初めて参加してみて、市民の人びとの温かさに触れることができたことに加え、自分の目で見て感じる体験・経験が出来たことを光栄に思う。また、機会があったら参加したいと思った。」（社会学部1年 高橋茉那）

「今年で3回目の気仙沼で、毎年行くたびに少しずつ町の景色が変わっていると感じます。今年は天気もすごく良いのもあってか町が明るくなったように感じました。今回参加して強く感じたのが、気仙沼の市役所の方も言っていたように、これからは復興ではなく地域活性化をいかにするかが重要になってくるんだなと思いました。元の暮らしに戻ったからそれでおしまい、とはいかないので、それぞれが人を呼びこむアイデアやどのように震災を伝えるかというプランがしっかりできていて、これからが楽しみだなと思いました。」（社会学部3年 武藤花緒理）



大谷海岸花火まっりのライブに出演しました



慰霊台付近に竹灯籠を設置しました



陸前高田市の被災跡地を見学



気仙沼市役所の方からお話を伺いました

⑭ 2017 夏の被災地ボランティア活動報告会

日時：2017年10月10日（火） 12：40～13：20

場所：多摩キャンパス 総合棟4階 会議室A.B

概要：

1. 内容

被災地支援をしている学生スタッフ「チーム気仙沼つながり騎士」「チームたまモン」の2団体が、夏休み期間中の活動について、これまでの活動による成果や今後の課題を含め報告を行った。

2. 参加者数

10名

3. 背景・目的

- ・気仙沼、熊本それぞれの被災地支援活動について知る。
- ・意見交換や講評をふまえ、今後の活動にいかす。

4. 参加者の感想

「わたしたちが普段活動していること、今後の課題を先生方や学生に聞いていただくことで、見えてきたものが多く、とても貴重な時間でした。フィールドは違えども、同じ被災地支援として、どんなことができるのか、知ることのできる機会でもあったので、学生にできることはなにかという参考にもなりました。」（社会学部2年 松田成美）



参加学生による発表



宮城多摩ボランティアセンター長より
講評をいただきました

⑮ 益城町を応援しなくっ茶！プリン 先行販売

日時：2017年10月20日（金）～10月21日（土）

場所：EGG DOME2階 Slow World café、6号館食堂

概要：

1. 内容

学生スタッフ熊本被災地支援「チームたまモン」の企画・提案で完成した、益城町の「お茶の富澤」と相原町の「カトウファーム」さんのコラボスイーツ、「益城町を応援しなくっ茶！プリン」販売を行った。当日は熊本県での被災地ボランティア活動パネルを展示。地域の方々にもお越しいただき、二日間で120食を完売した。

この活動は読売新聞より取材を受け、10月21日（土）付の多摩版に掲載された。

2. 参加者数

7名

3. 背景・目的

- ・学生が主導して、被災地と相原地域を結ぶ。
- ・熊本の状況を多くの人に知ってもらう。

4. 参加者の感想

「お客様が、プリンのラベルを見て楽しそうに選んでいるのが印象的でした。プリンをきっかけに、お客様とお話できました。これを通じてボランティア活動に興味を持っていただき、熊本に思いを馳せていただけたら嬉しいです。」

（社会学部2年 中島美希）



プリンのラベルは益城町の皆さんのデザインです



たくさんの方にお買い上げいただきました

①6 あいはらワクワク竹学校

日時：2017年11月3日（金・祝） 10:00～16:00

場所：町田市立相原中央公園 芝生広場

概要：

1. 内容

相原にぎわい創生プロジェクトの一環として、女子美術大学、造形大学、地域の方々と
の協働で開催。越部ゼミの学生が演技を披露し、学生スタッフは相原クイズのほか、竹を
モチーフにしたかぐや姫のキャラクターを展示。多くの方々にご参加いただいた。

2. 参加者数

22名

3. 背景・目的

- ・本学と相原地域のつながりを深める。
- ・多摩地域の大学と地域の方々が協働でイベントを実施する。

4. 参加者の感想

「当日は、天気も良く、来場者は700人を超え、幅広い人達が来場してくださり、私たちもとても楽しい時間を過ごすことができました。地域の方や他大学と企画段階から連携して行うイベントは、とても貴重なものであり、参加してくれた学生も多くのことを学ぶことができたと思います。今後の活動でも、地域の方と連携したにぎわい企画を考えていきます。」（現代福祉学部2年 鈴木琴音）



相原にまつわるクイズを出題



700人を超える方々に来場いただきました

⑪ 市民協働フェスティバル「まちカフェ！」

日時：2017年12月3日（日） 10：00～16：00

場所：町田市役所

概要：

1. 内容

町田市内で活動する団体が活動発表などを通じて交流を深めるためのイベントである市民協働フェスティバル「まちカフェ！」に、学生スタッフが参加。相原地区協議会のブースにて、熊本県益城町と相原町のコラボ商品である「益城町を応援しなくっ茶！プリン」の販売と活動パネルの展示を行った。

この活動はケーブルテレビJ:COMの取材を受け、テレビ放送されたほか、12月14日（木）付の毎日新聞に掲載された。

2. 参加者数

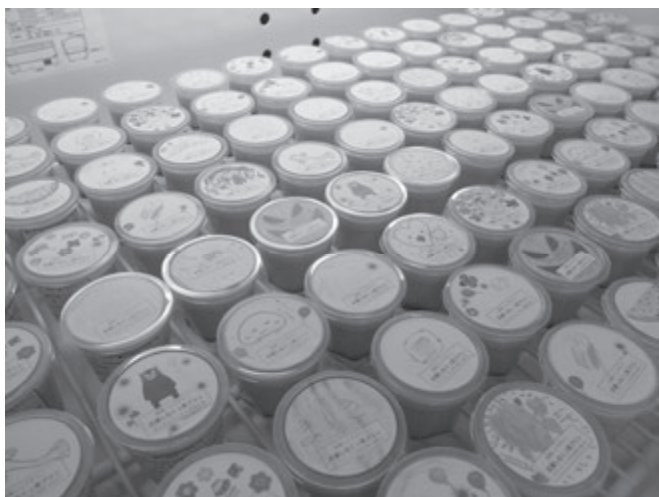
5名

3. 背景・目的

- ・法政大学のボランティア活動の周知をはかる。
- ・ボランティアを通じて、町田市で活動する諸団体の方々と交流する。

4. 参加者の感想

「普段関わることのできない地域の方々と、地域の魅力を再発見できる良い機会を持つことができて嬉しかった。今後もまちカフェを続けていって欲しい。」（現代福祉学部1年 廣田溪）



120個のプリンが完売しました



町田市長にもお越しいただきました

⑱ 学生ボランティア 2017 年度活動報告会

日時：2017 年 12 月 8 日（金） 15：20～16：40

場所：多摩キャンパス EGG DOME 5 階 研修室 1.2

概要：

1. 内容

多摩キャンパスではサークルやグループが多種多様なボランティア活動に取り組んでいる。報告会では、「地域にスマイルを届けよう活動助成金」採用団体を含む 6 団体が活動内容、学んだことについて報告を行った。

2. 参加者数

14 名

3. 背景・目的

- ・日頃の活動を通して学んだことを発表し、振り返りの場とする。
- ・各自の活動に対する評価と助言を受け、今後の活動にいかす。

4. 参加者の感想

「普段知ることができない活動を知れてよかった。自分たちの活動を最初から知っている方のコメントをいただけてよかった。もっと具体的に活動を進めていかなくては、と感じた。」（社会学部 2 年 伊藤風香）

「自分は勉強が足りていないと感じた。先生方はボランティア参加者不足に関して「もっと魅力を伝えなくては！」とおっしゃっていたが、そのような最先端の活動にぜひ参加し、「自分を磨きたい、変えたい」というような熱い意志を持った学生が少ないというのもネックの要因だと、プレゼンの中で感じた。もっと教授の方々とディスカッションの時間を作る中で、よりハイクオリティな会になってほしいと思った。」（現代福祉学部 2 年 玉泉貴大）



学生による活動発表



終了後、参加者全員で記念撮影

①9 相原 11 地区協議会連携 地域交流会「相原暮らしの竹カフェ/冬」

日時：2017 年 12 月 9 日（土）13：30～16：30

場所：EGG DOME 2 階 Slow World Café

概要：

1. 内容

6 月に開催した「相原思いの竹カフェ/夏」の第二弾。相原地域の方々をお招きし、ミニ里歩きを実施。また、音楽サークルによる演奏、防災を中心としたワークショップや福祉サークル主導の DIG 体験、「益城町を応援しなく茶！プリン」の実食や相原 PRCM の上映などを行った。

2. 参加者数

17 名

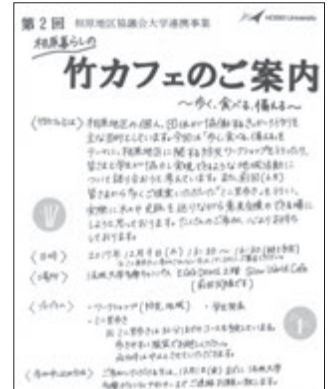
3. 背景・目的

- ・地域の方々との交流を深める。
- ・相原地域の魅力を改めて発見し、それをどのように発信し、他団体と連携していくかについて考える。

4. 参加者の感想

「竹カフェ全体を通して、地域の方だからこそ分かることや、私が考えもしていなかった意見を聞くことができ、有意義な交流の場となりました。今回感じたこと・考えたことを生かして、今後の活動に取り組んでいきたいと思います。」
（現代福祉学部 2 年 鈴木琴音）

「ご参加くださった地域の方や学生の皆様に「楽しかった」という声をたくさんいただけたことがとてもうれしく、励みになりました。竹カフェでのつながりが、少しずつ地域交流のきっかけとなるように、今後の企画に取り組んでいきたいです。」（現代福祉学部 1 年 橋本空）



ミニ里歩き



地域の方々16名にご参加いただきました

② 第4回大学生ボランティア写真展&イベント

日時：2017年2月14日（水）～2月18日（日）

場所：イオンモール多摩平の森

概要：

1. 内容

昨年同様、多摩地区6大学・行政・社会福祉協議会と合同で、学生の被災地ボランティアについてパネル展示と活動報告を行った。物産展やスタンプラリーも同時開催し、多くの来場者や学生団体と交流した。

2. 参加者数

5名

3. 背景・目的

- ・ボランティアを通じた他大学との交流。
- ・他大学の学生の活動を知り、自分たちの今後の活動にいかす。

4. 参加者の感想

「今回の、他大生や多くの参加者の方と協力し、多摩地域の方に私たちの活動や防災についての取り組みを知ってもらえたと思います。多くの震災の教訓として住民自主による防災、減災への取り組みが求められます。これからも多摩ボランティアセンターの学生スタッフとして相原地区、多摩地域における学生も参加する防災への取り組みを進めていきたいと改めて思いました。」（現代福祉学部2年 恩田祐希）



6 大学学生による活動パネル展示



積極的に来場を呼びかけました

②1 あいはらほうとう&落語寄席

日時：2018年3月9日（金）12：00～16：00

場所：大地沢青少年センター3F

概要：

1. 内容

あいはら住民福祉協議会主催の行事運営を支援した。陸上競技部の学生とともに準備を行い、受付や案内、ほうとうの配膳などのお手伝いをし、地域の方々と交流を深めた。

2. 参加者数

9名

3. 背景・目的

- ・相原地域の方々との交流を深める。
- ・地域の交流行事の運営補助を行う。

4. 参加者の感想

「地域の方と話しながら食べたほうとうはとても美味しかったです。落語をはじめとする舞台も参加できました。」

（現代福祉学部2年 鈴木琴音）

「地域の方と話す時間が短かったため次回もう少し長く取れたらと思う」（現代福祉学部2年 千田佳奈）

「美味しいほうとうを食べながら大勢の方とお話できて楽しかったです。地域の力というものを改めて感じたイベントでした。」（現代福祉学部1年 橋本空）



参加者の皆さんとほうとうを頂きました



南風亭一門さんによる落語や曲の演奏

②② 相原 11 地区協議会大学連携 「愛に来て！相原 竹カフェミニ」

日時：2018 年 3 月 10 日（土）13：00～15：00

場所：EGG DOME2 階 Slow World Cafe

概要：

1. 内容

日頃お世話になっている相原地域の方々をお招きし、箱根駅伝で活躍した体育会陸上競技部の選手および坪田智夫監督へのインタビュー、サークル「ちゅらたま」の手話講座、「デートコース」をテーマとしたワークショップ等を行った。

2. 参加者数

19 名

3. 背景・目的

- ・地域の方々との交流を深める。
- ・相原地域の魅力を改めて発見し、それをどのように発信し、他団体と連携していくかについて考える。
- ・相原地区の個人・団体が協働するきっかけとなる場を作る。

4. 参加者の感想

「地域の方とテーマを決めて話し合う機会はなかなかないので、多くの意見を直接聞くことができ、意味のある場になった、と感じました。いただいた意見を元にして、実行に向けてこれからも頑張っていきたいと思います。」（現代福祉学部 2 年 鈴木琴音）

「予想以上に多くの地域の方々に来ていただきとても感謝しております。駅伝選手や有名選手、教授などの懇談会はニーズがあると思いました。課題として今回の活動自体に目的が見えなかったこと、活動自体から次の活動に発展ができなかったことなどがあげられます。更に活動の目的・意義を明確化しより地域の方と交流ができるような会にしたいです。また他大学の方を招くことはとても良かった点だと考えます。他大学のボランティア団体やゼミなどを招き、さらなる地域間の発展を行えるのが理想です。」（現代福祉学部 2 年 恩田祐希）



法政大学陸上部のみなさんと一緒に



ちゅらたまさんによる手話講座

②③ 学生活動報告会【ガクマチ EXPO】

日時：2018年3月15日（木） 13:00～16:00

場所：町田市生涯学習センター7F ホール

概要：

1. 内容

「学生ボランティアの本音」をテーマに、町田・相模原で活動する大学の学生団体が、スライドを用いた活動報告とポスターブースセッション、ワークショップを行った。本学学生スタッフ3名を含め、全8団体が参加した。

2. 参加者数

3名

3. 背景・目的

- ・ボランティアを通じた他大学との交流。
- ・相模原地域で行ってきた活動を学外に向けて発信する。

4. 参加者の感想

「町田で活動する学生団体の活動をお互いに知ることができ、良い機会になったと思います。ブースで、お越しいただいた方と直接お話することができたのも、これからの活動に活かすために貴重な機会となりました。」（現代福祉学部 2年 鈴木琴音）



ステージでの活動報告



参加団体と交流を深めました

②④ はるかのひまわり絆プロジェクト IN 多摩キャンパス

日時：通年

場所：法政大学多摩キャンパス正門横

概要：

1. 内容

阪神大震災由来のひまわりの種「はるかのひまわり」を育て、命の尊さや被災地復興について考える、「はるかのひまわり絆プロジェクト」に参加。多摩キャンパス、益城町木山仮設団地、益城町立木山中学校と3カ所同時進行で育成した。種まき時には、本学の美術研究会にも協力を依頼し、看板を設置。無事開花し、多くの種を収穫することができた。収穫した種の一部は、熊本被災地支援を行う学生スタッフ「チームたまモン」が熊本県益城町にある上辻仮設団地に寄贈し、残りは神戸のプロジェクト主催団体のもとへ里帰りした。

2. 参加者数

14名

3. 背景・目的

- ・被災地域と連動したボランティア企画の実施。
- ・復興を願う象徴であるひまわりをキャンパス内に咲かせ、震災や命の尊さについて考える機会を提供する。

4. 参加者の感想

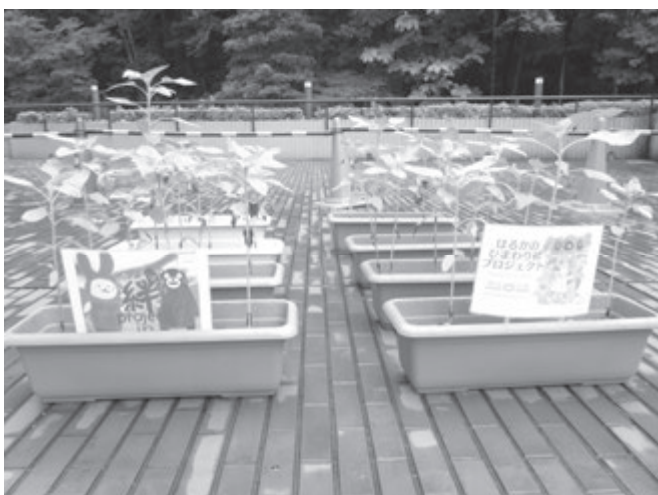
「多摩キャンパスの敷地を耕やして、私達が育てたはるかのひまわりが、きれいな花を咲かせ、沢山の種を実らせてくれました。その種を今回木山団地や上辻団地へお渡しすることができ、ひまわりを通して熊本と多摩キャンパスが繋がることができて、とても嬉しいです。」（社会学部2年 田野崎友里）



土を耕し、種まきの準備 (6/5)



プランターで生育したものを植え替え (6/14)



EGGDOME 内でも順調に成長 (6/28)



美術研究会の学生2名に看板を描いてもらいました (7/28)



無事開花しました (8/29)



上辻仮設団地の方に寄贈しました (2/19)

2017年度 多摩ボランティア支援プロジェクト イベントカレンダー

月 日	曜 日	イベント・講座・訪問先	概 要	参加者数
4月10日-4月14日	月-金	2016年度益城町支援活動写真パネル・折り紙展	「チームたまモン」による2016年度熊本県益城町支援活動風景のパネル展示	5名
4月22日	土	八王子市・町田市連携イベント 第4回チャレンジ防災	地元企業、学校、地域住民の方々、自治体、警察、消防などが連携・協働した防災イベント	3名
4月29日	土・祝	NPO法人自立ステーションつばさ 食事交流ボランティア	NPO法人自立ステーションつばさが主催する、障がいを持つ方との食事交流ボランティア	5名
5月19日	金	町田市立ゆくのき学園見学会	協定校である町田市立ゆくのき学園を見学	6名
5月23日・6月22日	火・木	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	10名
6月10日	土	―相原11地区協議会等連携― 地域交流会「相原思いの竹カフェ/夏」	Slow World Café にて、相原地域の方々との交流会	8名
6月24日	土	ヴィラ町田傾聴ボランティア&Voice of Winds演奏会	吹奏楽サークルVoice of Windsによる演奏会と傾聴ボランティア	23名
7月16日	日	第44回めじろ台祭り神輿巡業	めじろ台で開催されるお祭り支援	4名
8月2日	水	めじろ台ふれあいサロン傾聴活動	めじろ台ふれあいサロンにて地域の方からお話を伺う	2名
8月5日-8月6日	土-日	八王子まつり山車曳きボランティア	八王子まつりでの山車巡業	6名
8月20日	日	ヴィラ町田夏祭りボランティア	ヴィラ町田夏祭りの運営補助	4名
8月22日-25日	火-金	熊本被災地支援活動（第1次隊）	益城町仮設団地での子ども遊び支援	6名
9月8日-10日	金-日	宮城県被災地ボランティア ～気仙沼でつながりNIGHT～	宮城県気仙沼でのお祭り支援やスタディツアー	15名
9月30日-10月1日	土-日	熊本被災地支援活動（第2次隊）	熊本地震被災地を支援する「チームたまモン」の第2次隊	6名
10月10日	火	夏の被災地ボランティア報告会	気仙沼でつながり騎士、チームたまモンによる被災地ボランティア報告会	10名
10月18日	水	八木重吉記念館清掃ボランティア	町田市相原町出身の詩人・八木重吉さんのお墓参りと清掃	5名
10月20日-21日	金-土	益城町を応援しなかつ茶！プリン先行販売	コラボプリンの先行販売	7名
11月3日	金・祝	あいほらワクワク竹学校	女子美術大、造形大、地域と協同で行う竹をモチーフにしたイベント	22名
12月3日	日	第11回市民協働フェスティバルまちカフェ！	町田市内の活動団体が集い、活動の紹介展示やワークショップを行い交流を深めるイベントに参加	5名
12月8日	金	学生ボランティア2017年度活動報告会	多摩キャンパス学生による活動報告会	14名
12月9日	土	―相原11地区協議会連携― 第2回地域交流会「相原暮らしの竹カフェ/冬」	地域の方々を招き、防災ワークショップ	17名
12月11日	月	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	4名
2月14日-18日	水-日	イオンモール多摩平の森 大学生ボランティア活動展	イオンモール多摩平の森にて、他大学と合同でボランティア活動を報告、展示	5名
2月18日-20日	日-火	熊本被災地支援活動（第3次隊）	熊本地震被災地を支援する「チームたまモン」の第3次隊	4名
3月9日	金	あいほらほうとう&落語寄席	相原地域の交流企画に参加	9名
3月10日	土	―相原11地区協議会連携― 第3回地域交流会「愛に来て相原 竹カフェミニ」	地域の方々を招き、相原を盛り上げるためのワークショップを行う	19名
3月15日	木	学生活動報告会【ガクマチEXPO】	町田・相模原で活動する大学学生団体の活動報告会	3名
通年		はるかひまわり絆プロジェクト in多摩キャンパス	被災地と連携し、絆を深めるため多摩キャンパス正門横でひまわりを育成	14名

講師、協力先	備 考
大戸源流森の会・Slow World Café	「チームたまモン」による熊本県上益城郡益城町での活動風景のパネル展。4月14日（金）にはSlow World Caféにて益城町産のお茶を提供し、EGGDOME階段下では復興を願う竹灯籠を点灯した。
八王子市役所・町田市役所	地元企業、学校、地域住民の方々、自治体、警察、消防などが連携・協働した、防災イベントに参加。学生スタッフ3名が気仙沼、益城町での活動風景パネルを展示した。
NPO法人自立ステーションつばさ	多摩ボランティアセンターの新入生歓迎企画。多摩市で障がい者自立支援を行うNPO法人自立ステーションつばさにて、利用者の方との食事交流会を行った。
町田市立ゆくのき学園	新入生、新学生スタッフとゆくのき学園を見学。本学学生が行っているボランティア活動について、ゆくのき学園のボランティアコーディネーターにお話をいただき、校内を見学。子どもたちとふれあった。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
Slow World Café	日頃お世話になっている相原地域の方々をお招きし、「相原」の魅力について語り合い、学生から竹キャラクター&グッズ、ご当地CM等を提案した。
介護老人福祉施設ヴィラ町田	吹奏楽サークルVoice of Windsのメンバー20名による演奏会、学生ボランティア3名による傾聴ボランティアを行った。
めじろ台祭り実行委員会	第44回めじろ台祭りに参加し、神輿巡業を行った。
めじろ台安心ねっと	多摩キャンパス周辺地域の方々とより良い関係を築き、相互理解を深めるための訪問活動。めじろ台駅近くの「めじろ台ふれあいサロン」を訪問し、傾聴活動を行った。
元町連合町会・八幡上町会・コンソーシアム八王子	八王子まつりの山車曳き子として、八王子駅周辺甲州街道を巡業した。
介護老人福祉施設ヴィラ町田	ヴィラ町田夏祭りにて、出店の運営や利用者の方との交流等を行った。
熊本YMCA・熊本学園大学・熊本市育てネットワーク	仮設団地内で、子ども支援（映画鑑賞会・理科実験教室・カレー作り）を行い、現地の製茶工場や木山中学校を見学した。
本吉町内の自治会	大谷海岸花火まつりの運営補助を行った。舞台の設営、片付け等を手伝い、ステージに参加。そのほか、気仙沼市役所や陸前高田の方々からお話を伺い、被災跡地を見学した。
熊本YMCA・熊本学園大学・熊本市育てネットワーク	仮設団地内で、子どもとお菓子作りや、カトウファーム×法政大学×お茶の富澤コラボのプリンのラベルデザインを行った。
	被災地支援を行っている学生スタッフ「チーム気仙沼つながり騎士」「チームたまモン」が夏の活動について報告し、意見交換を行った。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
カトウファーム・お茶の富澤	学内にて、学生スタッフ考案のカトウファーム（相原町）とお茶の富澤（益城町）コラボの「かぶせ茶プリン」の先行販売を行った。
女子美術大学・造形大学・町田市立相原中央公園	女子美術大学、造形大学、地域の方々と協同で開催。越部ゼミの学生が演技を披露し、学生スタッフが相原クイズを出題した。
町田市市民部市民協働推進課	学生スタッフ考案のカトウファーム（相原町）とお茶の富澤（益城町）コラボの「かぶせ茶プリン」の販売を行った。
	多摩キャンパス学生が、この一年間の自分たちのボランティア活動について発表を行った。
Slow World Café	竹カフェのワークショップで上がった意見の進捗状況報告、防災ワークショップを行った。また地域の方が法政で伐採した竹の竹炭を披露した。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
イオンモール多摩平の森・多摩地区6大学・八王子社会福祉協議会・日野市社会福祉協議会・日野市役所	多摩地区の大学・行政とともに被災地ボランティアに関する活動パネル展、防災イベントに参加した。学生スタッフは宮城県気仙沼市・熊本県上益城郡益城町での活動について報告を行った。
熊本YMCA・熊本学園大学・熊本保健科学大学・熊本市育てネットワーク	熊本市内の大学2校と連携活動を行った。複数の仮設団地を訪問し、子どもとの工作教室、コーラスなどの活動を行った。
あいほら住民福祉協議会・町田市社会福祉協議会・大地沢青少年センター	「相原地区高齢者支援対策事業」として開催されている「あいほらほうとう&落語寄席」イベントに参加し、事前準備や受付業務を行った。
Slow World Café・町田ゆめ工房	相原地域の方々をお招きし、陸上部の選手や坪田監督へのインタビュー、サークル「ちゅうらたま」の手話講座、「デートコース」をテーマとしたワークショップ等を行った。
町田市生涯学習センター・桜美林・玉川・相模女子・北里・さがまち学生Club・二十祭まちだ実行委員会	町田・相模原で活動する大学学生団体がパネルディスカッション、ポスターブースセッションを通じて、自分たちの活動をPRした。
はるかのひまわり絆プロジェクト・法政大学美術研究会	阪神大震災以降、命の尊さや復興の象徴として広まった「はるかのひまわり絆プロジェクト」に賛同し、熊本の木山仮設団地や木山中学校と連携してひまわりを育成、種を収穫した。